



笑う門^{かど}には福来^{きた}る

正月の遊びの一つ、福笑い。目隠しをした人が、顔の輪郭だけが描かれた紙の上に、切り抜いた目・鼻・口・眉などを自分が正しいと思う場所に置き、出来上がったおかしい顔を見て笑い楽しむ、という遊びです。起源ははっきりせず、江戸時代後期から遊ばれ始め、明治時代には、お正月の遊びとして定着していたそうです。

「笑う門には福来る」ということわざがあります。いつも笑顔を絶やさない門（一族、一家）には自然と幸福がやってくる、という意味があるそうです。常に笑顔でいられるような一年でありたいですね。

さて、今年は、安城市が市制施行して60年の記念の年。市では、さまざまな周年事業を計画しています。参加する皆さんが笑顔あふれる、そんな行事を数多く準備していきます。どうぞお楽しみに。